

模範解答

平成 18 年度 作文

問 1

人間には想像力があり、自分の体験からまったく別のことを想像することができるが、人間が一生のうちにできる体験は、それほど多くない。その欠けている体験を読書はおぎなってくれる。そして想像力をやしなってくれる。さらに、読書から得た知識や感動は、心の中に、見えない宝物として残り、自分自身を魅力的に輝かせてくれる。しかもこの宝物は消えることはなく、つかうほどふえていく。だから読書はすばらしいといえる。（197文字）

問 2

解説を参照してください

解説

問 1

注意すること

- ・ 筆者の述べている（自分の考えではない）「読書のすばらしさ」をまとめる。
- ・ 140 字以上 200 字以内でまとめる。
- ・ 「体験」「想像力」「知識」「感動」の 4 つの言葉をすべて必ず使う。

方法

- ・ 筆者が「読書のすばらしさ」について述べている部分に線を引く。

この文章は、ストレートに「読書はすばらしい」とは書いていません。かわりに「読書の習慣がある人は幸せ」と書いています。その直後に、理由を示す接続詞、「なぜなら」が来ています。普通は、その「なぜなら」の後ろをまとめればよいのですが、今回は「心の翼をいつでも自由に羽ばたかせることを知っているからです。」となっています。これは、「比喩」であり、具体的な説明ではありません。分かりづらい表現を解答に入れるのは、よくないので、もっと分かりやすい表現を文章中から探しましょう。

最初の段落は、読書によってできること具体例が 3 つ挙げられています。具体例は、著者の主張を補うものなので、メインの答えではありません。「読書のすばらしさ」をはっきり書いている部分を探しましょう。

第 2 段落では「読書ほど人間の能力をはぐくんでくれるものはありません。」とあります。

この文は、第 1 段落と第 2 段落のまとめなので、線を引いておきましょう。

これまでの文章をまとめてみます。

第 1 段落と第 2 段落では、人間には想像力があり、その想像力のもとになるのが読書から得